

## 日中関係における良い点と悪い点

北京理工大学学生代表

見学日時：2016年12月5日（月） 14:15-15:30

見学場所：中華人民共和国駐日本国大使館

### 見学概要

普段のニュースでの報道であれ、または人々の食後の話題であれ、日中関係は日頃からよくそのテーマとなっているが、日中関係は結局のところどうなのかについて、私たちは客観的な角度から見たり、また数値化した角度から分析したりすることが難しいのが現状である。今回中国大使館を訪れ、より客観的な角度から見た日中関係について薛劍政治部公使参事官からお話があり、私たちも新たな視点から日中関係について考えることができた。



### 知っていますか？

日中関係は一部の面においては非常に良いが、また一部の面においては多くの対立を抱えている。

2015年中国における十大貿易相手国との貿易額およびその比率



このデータから、日本は中国にとって5番目に大きい貿易パートナーの一つ(国としてみた場合、日本はアメリカに次ぐ2番目に大きい貿易相手国)であり、中国もまた2015年にアメリカを追い越し日本にとっての最大の貿易パートナーとなっているため、両国の経済は密接な関係にある。中国では至る所で日本ブランドの自動車や電子製品また洋服などの商品を目にすることができる。同様に東京の地下鉄でもHUAWEIのスマートフォンのCMを目にすることができる。

文化交流の面から見ると、毎年留学で日本を訪れる中国人学生数は9万人以上で、日本における留学生の6割以上を占め、最も大きなグループとなっている。日本の書店では、中国の論語や道德経などの書籍を見かけ、中国では日本のアニメが多くの人から好かれている。食事の面では、東京にはチャイナタウンがあり、街では中国料理のレストランを良く見かける。同様に北京では日本料理のレストランを良く見かける。また日本に行ったことのある人なら、たとえ日本語ができなくても日本語で書かれたものの意味をある程度理解することができるという経験をしていると思うが、それは日本語には多くの漢字が使われているからである。

経済であれ文化であれ、または仕事であれ生活であれ、日中両国は密接な関係にある。

日中両国の中で戦争が起きるのではないかと常々言う人がいるが、上記の分析から、日中両国はこうした巨大な利益を見放すことはあり得ず、しかも両国共に戦火による損失に耐える能力は持っていない。そのため、平和的な付き合いこそが、中国そして日本にとって最良の両国関係なのである。

ただし、日中間の対立も大きなものとなっている。歴史的に見れば、日中間には幾度もの対立や衝突があり、日清戦争や日中戦争などの歴史的事件の傷痕は今でも中国人それぞれの心に残っている。現在では、中国と日本の間には多くの領土や貿易などの摩擦が存在している。これらについて薛公使参事官からは、中国と日本は隣人であり、こうした小さいざこざは隣人だからこそ起こるものであり、またこうした摩擦は日中関係の大局に影響するものではなく、両国間の戦争を引き起こすものでは尚のことないとのことであった。

そして最終日の歓送会では、大使夫人から、現在日中双方の民間における好感度は低いが、各方面が努力を続けている。国家レベルでは数年前に交渉を通じて尖閣諸島の問題を鎮静化し、対立の状況を回避している。民間レベルでは、私たちのような大学生同士の青年交流が活発であり、今回は私たちが日本を訪れたが、今後日本の大学生も同様の形式で中国を訪れ、若者世代の相手国への理解を通じて友情を確立していく、といった現段階における日中関係の状況についてのお話があった。



## 感想

今回の訪日を通じて、私たち理工大学の学生は皆日本について新たな印象を持った。日本では環境であれ人であれ、皆私たちに素晴らしい印象を与えた。私たちも今後日中友好に自分たちなりの貢献をしたいと思う。これこそが今回の活動における主な目的と意義だと思う。